

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

シルクロードの織機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍, 柳, 悦州 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5212

枠機【UFF-2】

調査年月日 : 1999年7月6日
 調査地 : サマルカンド (Samarqand) 市
 民族名 : ウズベク (Uzbek)

型式 : 水平式枠機
 材質 : 鉄, 木 (綜統固定具)
 概寸 : 全長200cm, 全幅150cm, 全高25cm
 経糸保持方式 : 固定式
 整経方式 : 平整経式
 開口具設置方式 : 綜統固定・開口保持棒可動式



織り手 : 女性 3人

調査メモ

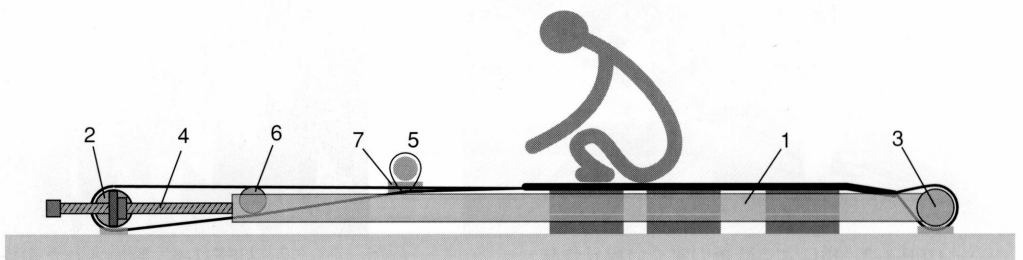
サマルカンド市内のカーペット工場で使用されていた水平式枠機のひとつで、この枠機は同じタイプの枠機とともに、床の上に並べた状態で設置されていた。機枠の両側のパイプは、前部に経糸張力調整用ネジ金具としてボルトが接合されており、前部経糸保持棒の両端を貫通したボルトをナットで締め付けて、経糸の張力が調整されている。開口具の設置方式は、綜統固定・開口保持棒可動式であるが、開口保持棒はほとんど動かされることはなく、手のひらで上糸を下に押し下げて経糸を逆開口させていた。緯糸の打ち込みには、緩衝材として緯糸打ち締め糸が使用されており、この紐は打ち込みを終えると抜き取られる。パイル織の糸の結びはトルコ結びであった。なお、この工場で使用されている水平式枠機の構造は、いずれも基本的に共通のものであったが、綜統棒や開口保持棒には、鉄製と木製のものが混在していた。

構成部品

機枠 : <図UFF-2-a-1>
 経糸保持具 : 前部経糸保持棒<図UFF-2-a-2>
 後部経糸保持棒<図UFF-2-a-3>
 経糸間接保持具 : 経糸張力調整用ネジ金具
 (2本) <図UFF-2-a-4>
 開口具 : 輪状綜統<図UFF-2-a-5>
 開口保持棒<図UFF-2-a-6>
 綜統固定具 : 木片 (2個) <図UFF-2-a-7>
 緯打具 : 櫛状緯打具<写真UFF-2-3>
 緯打補助具 : 緯糸打ち締め糸
 その他 : パイル糸切断用ナイフ, 鋏

製織中の織物

織技法 : パイル織
 地組織 : 平織変化組織
 素材 : 木綿 (経糸)
 : 木綿 (緯糸)
 : 絹 (パイル糸)
 用途 : カーペット
 経糸全長 : 180cm
 織幅 : 120cm



UFF-2-a 構造図



UFF-2-1 織機の全景



UFF-2-2 逆開口の操作



UFF-2-3 パイル糸の打ち込み



UFF-2-4 パイル糸を結ぶ

杵機【UFF-3】

調査年月日 : 1999年7月5日
 調査地 : チャヤンリ (Chayanli) 村
 民族名 : ウズベク (Uzbek)

型式 : 水平式杵機
 材質 : 金属, 木 (開口保持棒)
 概寸 : 全長435cm, 全幅258cm, 全高30cm
 経糸保持方式 : 固定式
 整経方式 : 平整経式
 開口具設置方式 : 開口保持棒可動式

構成部品

機杵 : <図UFF-3-a-1>
 経糸保持具 : 前部経糸保持棒<図UFF-3-a-2>
 後部経糸保持棒<図UFF-3-a-3>
 開口具 : 開口保持棒<図UFF-3-a-4>
 緯打具 : 櫛状緯打具<写真UFF-3-3>
 その他 : 鉞, クッション<図UFF-3-a-5>

製織中の織物

織技法 : 綴織
 地組織 : 緯畝組織
 素材 : 羊毛
 用途 : カーペット
 経糸全長 : 405cm
 織幅 : 209cm

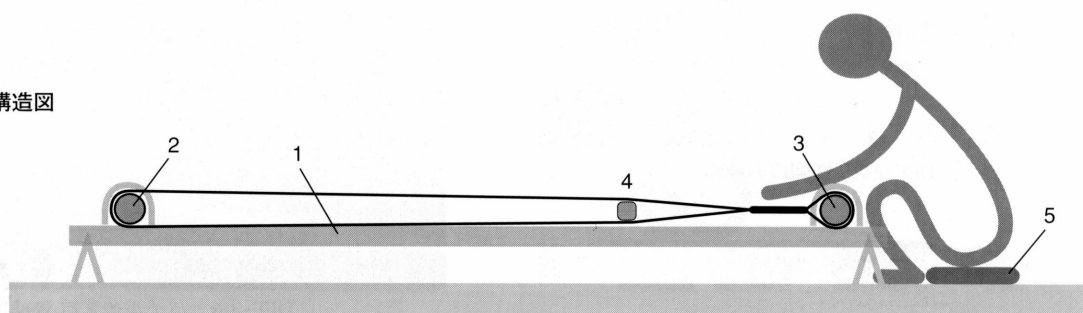
織り手 : 女性 1人

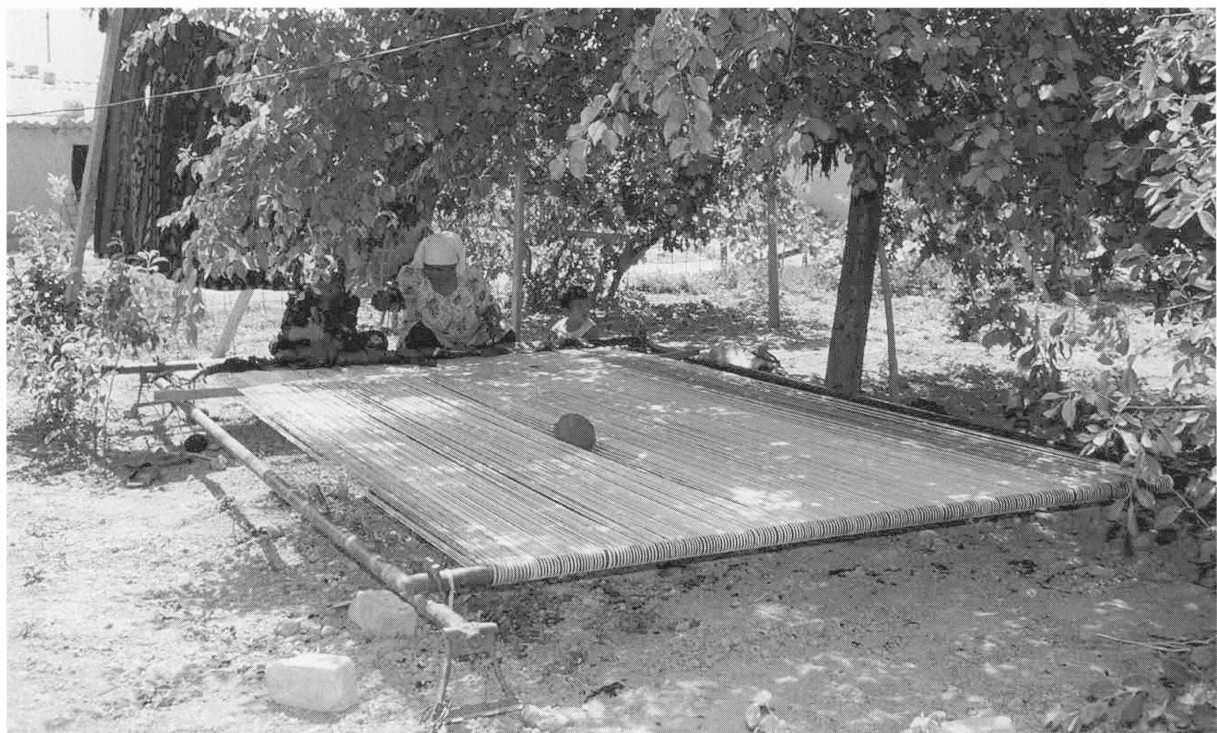


調査メモ

この杵機は、住居の前庭の木陰に水平に寝かせた状態で設置されていた。パイプを使用して作られた機杵には、四隅に脚が取り付けられており、機杵は地面から25cmほど高くなっていて、経糸は、機杵の一部を構成する前部経糸保持棒と後部経糸保持棒に張り渡されており、その整経方式は平整経式であった。開口具としては開口保持棒があるのみで、綜統は使われていない。また、開口保持棒の設置方式は可動式であるが、実際の経糸の開口操作では、開口保持棒はほとんど動かされることはなく、経糸の逆開口部に経糸を通すさいには、下糸を1本ずつ指先ですくい取っていた。この杵機では、綴織によって幾何学模様のカーペットが織られており、経糸と緯糸にはウールの毛糸が使用されていた。機織りは始まったばかりの段階で、織り手の女性は、後部経糸保持棒の手前の地面に座って機織りをおこなっていた。ただし、ある程度織り進むと、機杵の下にレンガを置いて板を渡し、その上の織られた織物を下敷きにして、座って機織りをするということであった。織られたカーペットは、自家用とする場合もあるが、その多くが現金収入を得るために販売される。なお、緯打具には、バリカンに類似した市販品と見られる小型の金属製櫛状緯打具が使用されていた。

UFF-3-a 構造図

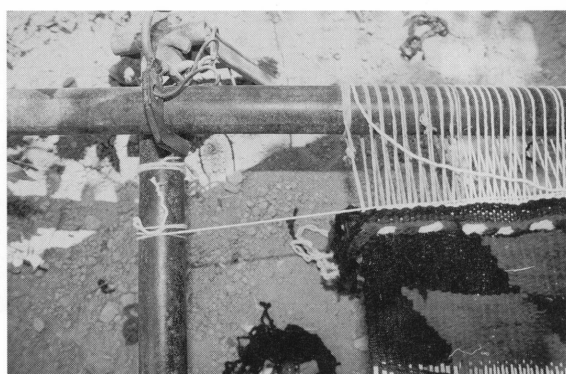




UFF-3-1 全景



UFF-3-2 織り手



UFF-3-4 後部経糸保持棒



UFF-3-3 経糸のすくい取りと緯打具



UFF-3-5 前部経糸保持棒

枠機【UFF-4】

調査年月日 : 1999年7月9日
 調査地 : カマシ (Kamasi) 村
 民族名 : ウズベク (Uzbek)

型式 : 水平式枠機
 材質 : 金属, 木 (開口保持棒)
 概寸 : 全長480cm, 全幅249cm, 全高23cm
 経糸保持方式 : 固定式
 整経方式 : 平整経式
 開口具設置方式 : 開口保持棒可動式

構成部品

機枠 : <図UFF-4-a-1>
 経糸保持具 : 前部経糸保持棒<図UFF-4-a-2>
 後部経糸保持棒<図UFF-4-a-3>
 開口具 : 開口保持棒<図UFF-4-a-4>
 緯打具 : 櫛状緯打具<写真UFF-4-1>
 その他 : クッション<図UFF-4-a-5>, 緯糸切断用ナイフ

製織中の織物

織技法 : 綴織
 地組織 : 緯畝組織
 素材 : 羊毛
 用途 : カーペット
 経糸全長 : 465cm
 織幅 : 161cm

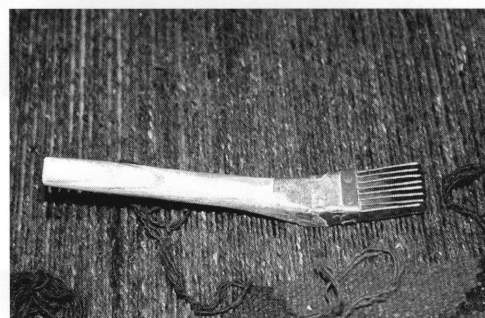
織り手 : 女性 2人

調査メモ

この水平式の枠機は、綴織のカーペット工場の砂地の土間に設置されていた5台の枠機のうちの1つである。金属製のパイプで組まれた機枠は、四隅に置かれたレンガの上に乗せてあり、機枠は地面から

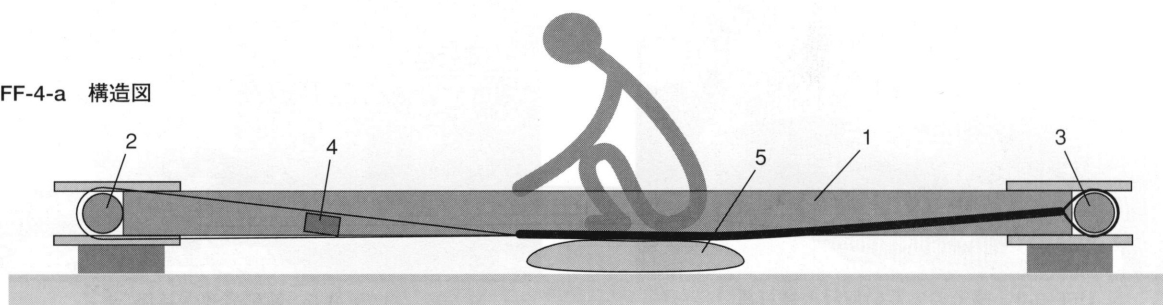


15cmほど浮かせてあった。経糸は、機枠の一部を構成する前部経糸保持棒と後部経糸保持棒に張り渡しており、その整経方式は平整経式であった。開口具としては開口保持棒があるのみで、綜統は使われていない。また、開口保持棒の設置方式は可動式であるが、実際の経糸の開口操作では、開口保持棒はほとんど動かされることなく、経糸の逆開口部に経糸を通すさいには、下糸を1本ずつ指先ですくい取っていた。織り手の2人の女性は、織り始めの段階では後部経糸保持棒を前にして座って機織りをしていたが、ある程度織り進むと、織り手は織った織物の上に座って機織りを続け、織り進むにしたがって、さらに前方に移動する。なお、織り手が座っている織物の下には、クッションが敷かれている。経糸には、山羊の黒い毛を紡いだ糸が使われていた。また、緯糸には、羊の毛をさまざまな色で染めた色糸が使用されており、それらの色糸では綴織によって<UFF-4-6>に見られるような幾何学模様があらわされていた。



UFF-4-1 緯打具

UFF-4-a 構造図





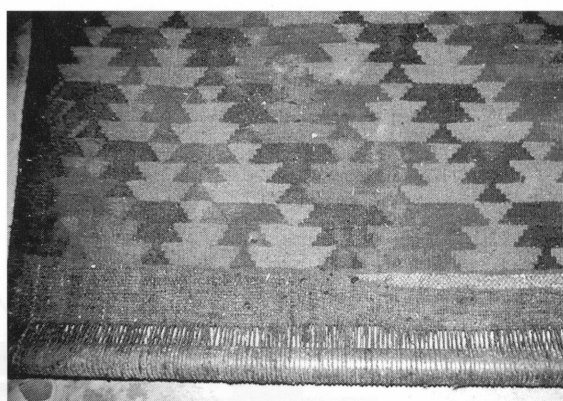
UFF-4-2 全景



UFF-4-3 工場内の様子



UFF-4-4 経糸をすくい取る



UFF-4-5 製織途中の織物